Close Up 四輪販売会社①

高齢運転者の方を中心に日頃の運転を振り返るプログラムを四輪販売会社に普及

近年の交通死亡事故の要因の一つとして、ペダルの踏み間違いなどの「運転操作不適」が高齢運転者を中心に目立っている。
Hondaはそういった運転操作不適による事故が若年層でも多いことから、すべての運転者の方に日頃の運転を振り返りながら、運転操作不適を防ぐ安全行動の重要性に気づいていただくためのプログラムとして、「みんなで安全運転行動診断（以下、みんなで安診（あんしん））」を開発。このプログラムの展開に向け、Hondaは全国各地で四輪販売会社（Honda Cars）向けの導入研修を実施し、5月10日にHonda福岡ビル（福岡県福岡市）で実施した研修には、九州・中国地方の四輪販売会社13社のスタッフ27名が受講した。
このプログラムでは受講者と四輪販売会社のスタッフが一緒になって、運転中の3つのシーン「乗車」「発進」「走行」における日頃の意識や行動の自己評価と、その後の体験を通した再評価との比較を行う。導入研修では、まずHonda安全運転普及本部のスタッフが受講者をお客様に見立て、プログラムを実演。「乗車」「発進」時については安全の不確認を原因とした事故を防ぐため、クルマの死角の広さの体験と併せて安全な乗車手順を紹介することで、乗車前の周囲の安全確認、セレクトポジションの目視確認、クリープ現象を利用した発進の重要性を説明した。そして「走行」時については、「皆さん、自分は運転操作の間違いは起こさない、と思われるかもしれません。では、本当に間違いを起こさないか、じゃんけんを使って試してみましょう」と、じゃんけんによる反応体験へと進む。通常のじゃんけんを行った後、スタッフが出した手を見てから勝つ手を出す後出しじゃんけん。最後は後出しで負けるじゃんけんで、通常のじゃんけんより対応が難しくなる。これは運転中に起きる予想外の状況を例えたもので、単純な行動であっても予想外の状況では「認知（見る）・判断（決める）・操作（行動する）」が難しいことを実感してもらい、正確に見て、決めて、行動するためには余裕をもった行動と早めの危険予測が重要であることを伝える。受講者は体験によって気づいたことや今後、何に気をつけるかを診断シートにまとめた。この後、受講者が交互に指導者役とお客様役となり、「みんなで安診」のロールプレイを行った。
Honda Cars 中央佐賀 鹿島店店長 川原博史さんは「クルマの死角など、実車を使って具体的に説明できる点が良いと感じました。お客様にも喜んでいただけると思います」と、このプログラムを評価する。Honda Cars 広島 栗原店 杉原朱美さんは「高齢者だけでなく、そのご家族も含めた幅広い年齢層に活用できそうです。クルマの死角の確認やクリープ現象を利用した発進は、すぐにでもお客様に勧めようと思います」という。Honda Cars 下関 綾羅木店店長 弓﨑一人さんは「気軽に参加できる後出しじゃんけんもあり、お客様を飽きさせない内容になっていると感じました。当社のお客様の年齢層は50代以上が多いので、そういった方々を対象にした講習の開催を計画しています。その中に、このプログラムを取り入れたいと考えています」と話す。

Honda安全運転普及本部のスタッフが「みんなで安診」を実演しながら、進行上のポイントを受講者に伝える

受講者が順番に指導者役となり、ロールプレイを行う

パイロンを使ってクルマの死角を確認

安全な乗車手順と正しい運転姿勢を説明

じゃんけんによる反応体験

●プログラム概要

導入	体験		まとめ
体験前の自己評価	①乗車、発進 ・死角確認 ・安全な乗車手順	②走行 ・じゃんけんによる反応体験	体験後の自己評価

比較し、自身のギャップに気づいていただく

Close Up 四輪販売会社②

先進の安全運転支援システムの効果や限界をお客様に正しく理解していただく体感試乗会

Honda SENSINGは、衝突軽減ブレーキをはじめとする多彩な安心・快適機能を搭載した先進の安全運転支援システムである。全国各地のHonda Carsでは、Honda SENSINGをお客様に体感していただくための場と機会を提供している。
5月18日、Honda Cars 香川／愛媛（本社：香川県高松市）がHonda セーフティトレーニングセンター四国（香川県坂出市）で「Honda SENSING体感試乗会」を開催した。
同社販売部販売課課長 辻聖二さんは「Honda SENSINGを搭載したクルマを普及拡大していくためには、お客様に体感していただくことが重要です。そして、安全運転支援システムの効果や限界を正しく理解していただくことが、私たちの使命だと考えています。昨年、当社のスタッフがアドバンスドセーフティコーディネーター研修※を受講したことにより、体感試乗会を実施できる体制が整いました。さらに、お客様の安全運転意識を高めるため、Hondaの交通教育センターの協力を得て、急ブレーキ体験も取り入れています」と話す。
体感試乗では、最初に集まったお客様に衝突軽減ブレーキなどの作動原理や機能の限界を説明。その後、スタッフの運転するクルマにお客様が同乗し、衝突軽減ブレーキを体感する。50m先に設置された専用のダミーターゲット（以下、ダミー）に向かって、20km/hで走行。ダミーに近づくと警告音が鳴るが、あえてブレーキを踏まない。すると、衝突軽減ブレーキが作動し、ダミーの手前でクルマは停止するが、「雨や雪の日など路面状況によって停止距離は変わってきます。これは、あくまで速度を下げて衝突による被害を軽減するためのものであることを忘れないようにお願いします」とスタッフが説明する。再びスタート地点に戻り、同じ速度でダミーターゲットに向かって走行。今度は警告音が鳴った直後にブレーキをかけると、先ほどより手前で停止する。「警告音が鳴るタイミングでブレーキをかければ、余裕をもって停止できることがわかったと思います。自分の目でまわりをよく観て、こうした機能を過信しないことが大切です」と、安全運転をすることの必要性を強調した。このほか、停車時や10km/h以下の低速走行時、前方の障害物を検知してドライバーがアクセルペダルを踏み込んだ場合の急加速を抑制する誤発進抑制機能の体感も行われた。
急ブレーキ体験は、鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターが担当。お客様が直線コースを40km/hで走行し、目標となるパイロンを通過したら急ブレーキをかけて止まるというもの。ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）が作動した時のクルマの挙動を体験してもらう。次に、同じ速度で走行中に正面に設置した信号を点灯させ、それを確認してから急ブレーキをかけて止まるという体験。信号の点灯を認識してからブレーキを操作するまでの反応時間がかかり、その分だけ前回より停止距離が長くなっていることを確認してもらうのである。「危険を発見したら、ハンドルをきって回避する前にブレーキをかけて速度を落としてください。万一、ぶつかってしまった時に相手や自分への衝撃を弱められるからです。そして、急ブレーキを使わなくても済むように周囲をしっかり観ましょう」とインストラクターがアドバイスした。
体感試乗会に参加した高齢のお客様は「今日は様々な体験を通じて、より慎重に運転しなければならないとあらためて感じました。次に買い替える時は、Honda SENSINGが付いているクルマにしようと思います」という。また、10歳の子どもと来場したお客様は「普段は使うことがない急ブレーキを体験できたことが印象に残っています。クルマは急に止まれないことが理解できました。Honda SENSINGが付いているクルマに乗っていますが、こうした機能に頼ることのない運転が大切であることがわかりました」と話す。
この日は香川県内から176名のお客様が来場した。Honda Cars 香川／愛媛は今後、愛媛県内でも体感試乗会を開催する考えだ。

※セーフティコーディネーター（SC）は安全運転のアドバイスを行うための社内資格。アドバンスドSC研修はSC資格取得者を対象に、レベルアップ研修として実施。

スタッフが運転するクルマにお客様が同乗して、衝突軽減ブレーキなどを体感

体感試乗の前に衝突軽減ブレーキなどの作動原理を説明

安全運転支援システムの機能には限界があることを伝える

お客様が運転して40km/hからの急ブレーキを体験

お客様に安全運転のためのアドバイスを伝えるインストラクター